

1 研究主題

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成 ～タスク活動の工夫を通して～

2 研究の経過と概要

(1) 研究主題の設定理由

本研究会では、毎年、研究会で学んだことを授業で生かせるように、部会員による具体的な実践報告およびその検討を主とした研究を行っている。

本年度は、研究主題を「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～タスク活動の工夫を通して～」とし、児童・生徒に基礎学力を身につけさせるために必要となる「英語学習に対する意欲」について、昨年まで取り組んできたことを継続して研究していくことにした。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」を含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも、新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。

私たちは、小学校における外国語活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地を児童に、また、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読むことができるなどの「コミュニケーション能力」を生徒に身につけさせなければならない。このようなコミュニケーション能力を身につけさせていくために、児童や生徒自身の学習の原動力や推進力となる学習意欲を高めることが最も重要であると考え。そのためには、学習したことが、どのように自分の生活に役立つのか、どの場面で使うのかなど、児童・生徒の生活と結びつくことで、より学習に対して意欲的に取り組むことができる考える。そこで、既習事項を活用しながら、児童・生徒により身近で、実際の生活と関連性のあるタスク活動を仕組んでいくことで、児童・生徒が学習内容を身近に感じたり、学習に対して必要性を感じたりして、児童・生徒の英語学習への意欲を高められるだろうと考え、本テーマを設定した。昨年度は、「わかる授業・楽しい授業」をサブテーマに取り組んだが、今年度は、昨年度のものをより具体的にして「わかる」につなげるために、タスク活動について、学びを深め、授業に役立てていきたい。

(2) 研究目的および研究仮説

①研究目的

・英語学習における基礎学力を児童・生徒に身につけさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるため、タスク活動への理解を深め、タスク活動を用いた指導の工夫について研究する。

②研究仮説

・既習事項を活用しながら、児童・生徒により身近で、実際の生活と関連性のあるタスク活動を仕組んでいくことで、児童・生徒が学習内容を身近に感じたり、学習に対して必要性を感じたりして、児童・生徒の英語学習への意欲を高められるだろう。

③仮説の検証方法

- ・研究主題にせまるための文献研究、講師を招聘しての学習会
- ・指導案検討や研究授業を通しての仮説の検証

(3) 研究内容

- ・研究テーマにせまるための指導案作成と授業実践 ・先行研究から学ぶ。
- ・実際の生活との関連性を高めたタスクの検討と実践
- ・小中連携を意識した活動の展開を検討する。
- ・小学校新学習指導要領や新教材など小学校英語科について学ぶ。

(4) 研究の経過

月 日	内 容
2017年5月 8日	組織決定・今年度の研究の方向性・統一授業研について
5月24日	研究の方向性（サブテーマを含む）について・小中分科会
6月14日	事例研究①（小中分科会） 夏季学習会の内容の決定
7月31日	夏季学習会・統一授業研①授業案検討
8月30日	統一授業研①（授業者：山梨北中学校 廣瀬）
9月20日	事例研究②（小中分科会）
11月29日	事例研究③（小中分科会）
2018年1月10日	統一授業研②授業案検討
2月 7日	統一授業研②（授業者：笛川小学校 小池）
2月14日	今年度の研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について

(5) 研究組織および部員

- ・助言者 廣瀬 芳樹（山梨小学校）
- ・部長 利根川紫野（山梨北中学校）
- ・副部長 加藤 紀子（松里中学校），飯室 林（日下部小学校）
- ・部員 小宮山公仁（塩山北小） 渡邊皓（塩山北小） 三枝ゆかり（塩山中）
水上かおり（塩山中） 益田宗土（塩山中） 佐藤佳奈（塩山中）
河野美春（塩山北中） 柏原一仁（大和中） 藤木真里佳（日下部小）
小池美樹（笛川小） 長嶋明美（山梨南中） 平井成二（山梨南中）
大村隆（山梨南中） 依田久（山梨南中） 廣瀬剛（山梨北中）
井口飛鳥（笛川中）

5 学年外国語学習指導案

指導者 HRT 小池 美樹
ALT Kimberly Fulfs
JTE 庄子 光子

1 単元名 レストランで

“What would you like?” (山梨市小学校英語科 第5学年 Lesson12)

2 単元について

本単元では、レストランでの注文の会話を想定した内容を扱う。相手を意識してコミュニケーションを図り、自分の思いを伝え合い、欲しいものやその値段について尋ねたり答えたりする活動を行う。本校の5年生は、英語の学習を1, 2年時に15時間、3・4年時には20時間外国語活動を行ってきた。3年時には、「お店やさんごっこをしよう」という単元で客と店員に分かれて買い物をする活動を行い、「May I help you?」「Pencil, please.」という店員とお客とのやりとりや、「How much?」と値段を尋ねる表現や文房具の単語を学んでいる。4年時には、「カフェテリアで」という単元で、カフェテリアで昼食を注文する活動を行い、カフェテリアのメニューの単語を使い、3年時に学習した表現を使って注文する活動を行っている。

児童の「知りたい」「伝えたい」という気持ちを大事にし、会話形式のコミュニケーション活動を中心に据えることで、相手とコミュニケーションを図ろうとする「積極的な態度や意欲」を育てやすいと考える。今回、タスク活動を通して、コミュニケーション能力の「素地」を養っていく。

5年時で取り扱う内容では、店員とお客との役割を明確にし、店員は“What would you like?”の表現を、お客の役割では、“I'd like ~, please.”の表現を扱い、より丁寧な言い方があることを知ることで、日本語との共通点に気づかせたい。レストランの注文場面では、デザートや飲み物、様々な食べ物があり、新出単語を数多く取り入れて活動を進めていく必要がある。そこで、ゲームを活用して単語に慣れ親しませる時間をより多く設ける。単元の終盤では買い物のロールプレイを仕組み、店員と客で“How much?”“~dollars.”という表現を使わせ、レストランでの一連のやりとりをさせるようにする。

3 児童の実態

男子19名、女子13名、計32名の学級で本校の中の学級の人数としては最多の人数のクラスである。本校は2016年に牧丘第一小、牧丘第二小、牧丘第三小、三富小の4校が統合し、笛川小学校としてスタートした。昨年は人間関係を改めて構築するためか、お互いを探りながらクラスを作っている様子があったが、お互いの様子が分かった現在は、それぞれの個性を出しながら、いきいきと学校生活を送っている様子が見られる。高学年になり、自分の考えに自信がなくなってきたり、人と違う解答を出すことに抵抗があったりするためか、発言が少なくなっている。学力差は見られるが、学習に取り組む姿勢は真面目で、最後まで取り組もうとする様子が見られる。

英語の授業においては、担任のかわりに英語教科担当が入り、ALT・JTEの3名で授業を行っている。

ALTの話す英語を注意して聞き、自分なりに意味を類推して考えたり、わからない単語は担当教師やJTEに聞いたりしながら学ぼうとする姿勢が見られる。

英語アンケートの結果から、75%の児童が「英語がすごく楽しい、楽しい」と答えている。一方、「あまり楽しくない」と答えている児童が25%おり、同じ児童が「英語の学習にどちらかというに進んで参加していない」「英語の学習の時、あまり進んで話そうとしなかった」「将来、生活の中で英語を使ってみたくてあまり思わない」と低い評価がついている。英語を聞きとることや読む、書くことにも消極的な部分もみられることから、児童の様子を見ながらゆっくり話したり、繰り返し練習をしたりしながら、英語に対する不安を少なくする手立てが必要と考える。また、アンケートの結果から友達と一緒に活動したり、英語を聞いて言葉がわかったりしたときに喜びを感じていることが分かるので、この授業を通して自分たちで会話のやり取りを考えたり、その会話を生かして友達と会話したりするなど英語が生活と結びつく実感できるような活動を行う。

『英語の学習アンケート』から（9月実施）

① 英語の授業は楽しいですか。			
すごく楽しい	2	楽しい	2
あまり楽しくない	8	楽しくない	0
② 英語の学習に進んで参加しますか			
進んで参加している	7	どちらかといえばしている	18
		どちらかといえばしていない	7
		進んで参加していない	0
③ 英語の学習で楽しいと感じるところはどんなところですか。（複数回答）			
担任の先生が教えてくれるところ	1	友達と一緒に活動するところ	21
ALTやJTEの先生と話すところ	7	英語を聞いて言葉がわかったとき	17
英語で質問したり答えたりするところ	6	思ったことや考えたことを英語で話すとき	3
英語を聞くとき	6	英語を読むとき	2
英語を書くとき	11	外国のことが分かったとき	11
④ 先生やALTの話している英語を聞き取ることができましたか。			
よく聞き取れる	3	少し聞き取れる	23
		あまり聞き取れない	6
		全く聞き取れない	0
⑤ 英語の学習の時、進んで話そうとしていましたか。			
進んで話そうとしていた	2	少し話そうとしていた	18
		あまり話そうとしなかった	12
		全く話そうとしなかった	0
⑥ 英語の文字を読みたいと思いますか。			
とても思う	6	少し思う	19
		あまり思わない	6
		まったく思わない	1
⑦ 英語の文字を書いてみたいと思いますか。			
とても思う	8	少し思う	15
		あまり思わない	9
		まったく思わない	0
⑧ 外国のことをもっと知りたいと思いますか。			
とても思う	10	少し思う	17
		あまり思わない	4
		まったく思わない	1
⑨ 将来、生活の中で英語を使ってみたくて思いますか。			
とても思う	1	少し思う	15
		あまり思わない	14
		まったく思わない	2

4 研究との関わり

今年度は「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～タスク活動の工夫を通して～」をテーマに、前年度までの研究を踏まえ、今年度はさらにタスク活動に焦点を絞って研究が進められている。また、小学校から中学校への接続の面で課題が見られるため、昨年度に引き続き小中連携も意識した研究を行う必要性も確認され、研究を進めている。

◎ タスク活動について

6月14日、7月31日の研究日において山梨大学の田中武夫先生からタスク活動についてご教授頂いた。タスク活動とは、文法指導により学んだことを使ってコミュニケーションを行う従来のPPPアプローチ（presentation practice production approach）に対して、コミュニケーション活動を行い、使いながら学ぶ学習方法である。とりあえず文法のことにはとらわれずに、コミュニケーションを児童に体験させる指導を行い、ニーズが高まった時点で、学習者のスタイルや発達段階を考慮しながら、最も適切な形で文法指導を行うのが大切であるとされている。また、タスクとは一般的にプレ活動・タスク・ポスト活動の3つの段階を踏んで行われる。プレ活動では、活動説明・モデル提示・スキーマ活性化を行い、タスクでは時間制限のある中で活動をし、活動中の支援・言語使用の観察を行う。また、ポスト活動においては、発表・分析活動・必要に応じてタスクの繰り返しを行うとされている。

小学校においては、既習の文法項目は少なく、何も教えずにタスク活動に入ることは困難である。そのため、これまで学習してきた表現でタスク活動に生かせるものがあるか、またどんな表現を学べばタスクが達成できるのかを考え、学習の意欲が高まったところで、必要なモデル文を提示して学習を行う流れを考えた。さらに、必要な文章表現を学んだあと、単元後半でもう一度同じ場面設定で条件を加えたものに挑戦し、自由に表現を使ってコミュニケーションを行い、単元を通したタスク活動に取り組むことを計画した。

具体的には、全5時間の単元の1時間目で「レストランで注文をする」という今単元のゴールを提示する。そして、児童にレストランでの注文場面の会話を考えさせるプレ活動を通して、既習の学習で学んだどんな表現が使えるか、どんな表現を知れば活動ができるのかということを確認にし、学ぶ意欲を高める。その後、必要な表現や語彙を学習し、5時間目において、決められた金額で自由にレストランにおいて注文をするというタスク活動を行う。

5 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲態度】

- ・レストランで欲しいものや値段について積極的に尋ねたり答えたりしている。

【表現の能力（話すこと・書くこと）】

- ・レストランのメニューの単語や値段を尋ねたり答えたりすることができる。
- ・丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりすることができる。
- ・メニューの品物を表す単語を書き写すことができる。

【理解の能力（聞くこと・読むこと）】

- ・レストランで注文したり受けたりする言い方やレストランのメニューの単語や値段を聞くことができる。

【言語や文化に関する気づき】

- ・英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気づくことができる。
- ・英語と外来語の言葉や発音の違いに気づくことができる。

6 評価規準

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	話すこと・書くこと	理解の能力	聞くこと・読むこと	言語や文化に関する気づき
評価規準	・レストランで欲しいものや値段について積極的に尋ねたり答えたりしている。	・レストランのメニューの単語や値段を尋ねたり答えたりすることができる。 ・丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりすることができる。 ・メニューの品物を表す単語を書き写すことができる。	・レストランで注文したり受けたりする言い方やレストランのメニューの単語や値段を聞くことができる。	・英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気づくことができる。 ・英語と外来語の言葉や発音の違いに気づくことができる。		

7 言語材料

What would you like? ～, please. I'd like a hamburger and milk, please.

How much? 15 dollars. Here you are. Thank you.

メニュー cake, hamburger, omelet, hamburger steak, spaghetti, hot dog, pizza, ice cream, yogurt, pudding, orange juice, parfait, sausages, salad, fried chicken, green tea, natto, miso soup, rice, sushi, bread, French fries, curry and rice, sandwich, milk

8 単元計画(5時間)

時	目標と主な活動	評価						言語材料	
		コ	表現		理解		異		
			話	書	聞	読			
1 本 時	丁寧な注文の聞き方、仕方を知ろう。 かるたゲーム				○		◎	・英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気づくことができる。 (観察・振り返りカード) ・レストランで注文したり受けたりする言い方やレストランのメニューの単語を聞くことができる。(行動観察)	What would you like? I'd like ～, please. メニューの単語
2	・丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりしよう。 カード集めゲーム/ Writing	◎	○					・丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりすることができる。 (行動観察, 振り返りカード) ・メニューの品物を表す単語を書き写すことができる。(ワークシート)	1時と同じ

3	レストランでの会話に慣れよう。 注文リレーゲーム Writing	◎	○				・レストランのメニューの単語や値段を尋ねたり答えたりすることができる。 (行動観察, 振り返りカード) ・メニューの品物を表す単語を書き写すことができる。(ワークシート)	1時の言語材料 How much? ~dollars. Here you are. Thank you. メニューの単語
4	レストランでの会話を進んでしてみよう。 レストランゲーム	◎	○				・レストランで欲しいものや値段について積極的に尋ねたり答えたりしている。 (行動観察) ・レストランのメニューの単語や値段を尋ねたり答えたりすることができる。 (行動観察, 振り返りカード)	3時と同じ
5	・持っているお金の中で、レストランで自分の食べたいメニューを買おう レストランゲーム	◎					・レストランで欲しいものや値段について積極的に尋ねたり答えたりしている。 (行動観察, 振り返りカード)	3・4時と同じ

9 本時の学習 (1 / 5時)

(1) 日時 平成30年2月7日(水) 5校時

(2) 場所 笛川小学校 5年教室

(3) 目標

◎レストランで注文したり, 受けたりする表現を考え, 場に応じて丁寧な表現があることに気づくことができる。(言語や文化に関する気付き)

○レストランで注文したり, 受けたりする言い方やレストランのメニューの単語を聞くことができる。

(4) 展開

時間	児童の活動	指導者の活動 ○HRT☆ALT□JTE	準備品・評価規準
Let's Start (3min)	1. あいさつをする。 2. 本単元の最終的な目標の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">レストランでの会話ができるようになるう。</div>	☆全体に向かって簡単なあいさつをする ○本単元のゴールを提示し見通しをもって学習に取り組めるよう声かけを行う。	名札

Let's
Try
(20min)

3. レストランで注文する会話を考える。

- ・児童2人に店員と客に分かれてピザを買う活動に英語で挑戦する。



- ・全体で1の場面に合うせりふを確認し、どのように活動するかでのデモンストレーションを見る。
- ・班ごとにレストランでは、どんな会話をするかを考え、日本語で吹き出しに書き込む。



Let's
try

- ・場面の吹き出しごとに教師が英訳をし、各班の内容を比べ、最もよい表現にALTが◎をつける活動から丁寧な表現の必要性を考える。

評価

英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気づくことができる。(観察)

- ・子どもの文章からALTが選んだ表現でモデル文を作り、確認する。



- 3・4年時の学習を思いださせる。
- 間違いを気にせず、挑戦するよう声をかけ、終わった後は失敗を恐れず挑戦したことをほめる。
- ☆児童を称賛する。
- レストランでピザを注文するという場面にあった会話を考えることを伝える。

- 1の場面のセリフを児童に考えさせ、やり方をとらえさせる。
- 移動黒板に6班分掲示する。



実際の板書

- 児童から出てきた自由な表現を、吹き出しに書き込み、英訳する。
 - 日本語の吹き出しを英訳する。
 - ☆よい表現に◎をつけ、それを選んだ、または除外した理由を説明する。
 - ALTの話から文化の違いについて説明が必要な場合は、その点について説明する。
 - 日本語で最も良い表現とその理由を考えさせ、レストランでのやりとりでは丁寧な表現が必要だということに気づかせる。
- また、ALTが最も良い表現に選んだ基準を聞き、英語でも丁寧表現があることやその表現が必要であることを気づかせる。


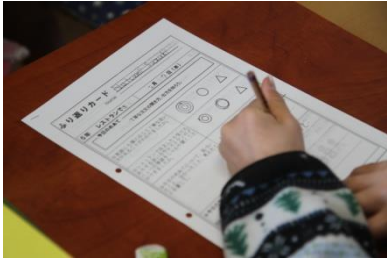
- ・メニュー
- ・模型



黒板用場面絵
・ペン

場面絵
ペン

移動黒板

	<p>・モデル文を使った HRT と ALT のデモンストレーションを見る。</p>	<p>□選んだ表現でモデル文を作り黒板に書く。</p> <p>○☆客と店員に分かれてデモンストレーションをする</p> <p>○☆ゆっくりとしたテンポで表情や態度を意識してデモンストレーションを行う。</p>	<p>エプロン・伝票・トレイ・ピザ皿・メニュー</p>
(1min)	<p>例</p> <p>ALT: What would you like?</p> <p>HRT: I'd like pizza, please.</p> <p>ALT: O.K.</p> <p>ALT: (ピザをもってきて) Here you are.</p> <p>HRT: Thank you. (It looks delicious.)</p> <p>ALT: (Enjoy your pizza.</p>		
(5min)	<p>4, めあての確認をする。</p> <p>丁寧な注文の聞き方, 仕方を知ろう</p> <p>5,モデル文を使い, 丁寧な表現の言い方を練習したり, 単語練習をしたりする。</p>	<p>☆児童の様子を確認しながら, 何度かリピート練習させる。</p> <p>○☆文章は単語を短く切りながら, 文字を追いながら発音させる。</p> <p>○使用する単語はほぼ既習のもので冠詞をつけないものを使い, 覚えることが多すぎないよう負担を減らす。</p> <p>○☆□デモンストレーションにより, 児童にゲームの仕方を伝える。</p> <p>○□ゲームの仕方や表現が分からない児童を支援する。</p> <p>☆児童の発音をよく聞き, 発音が異なるときには正しい発音を指導する。</p>	<p>めあてカード</p> <p>ピクチャーカード・ミニカード</p>
(10min)	<p>6, かるたゲームをする</p> <p>・ペアにカルタが配られる。</p> <p>・全員で “What would you like?” と聞く。</p> <p>・ALT が “I'd like ~, please.” と答える。</p> <p>・聞いたカードを取る</p>		<p>評価【表現の能力 [聞くこと]】</p> <p>・レストランで注文したり受けたりする言い方やレストランのメニューの単語を聞くことができる。(観察)</p>
	<p>cake, pizza, ice cream, orange juice, salad, green tea, curry and rice, milk, (既習) spaghetti, sausages, natto, sushi, (未習)</p>		
Let's look back (5in)	<p>7, ふりかえりカードを書き授業を振り返る。</p> <p>8, あいさつをする。</p>  <p>実際の板書</p>	<p>○ふりかえりカードを書かせる。</p> 	<p>評価</p> <p>英語にも場に応じて丁寧な表現があることに気づくことができる。【言語や文化に関する気づき】(振り返りカード)</p>

(1 1) 授業者の反省

- ・今回は、ポストタスクにつなげるためのプレタスクという位置づけでこの授業を行った。今までの言い方で、使いたいけれど、知らない表現や単語があることに気づき、どんな言葉を学ぶとレストランで注文をしたり、受けたりできるかに気づいてもらいたいという目的でこの時間を設定した。
- ・ボランティアの会話に意識を取られ、3・4年生の時に学習した内容を思い出させたり、確認したりする時間を落としていたので、班での活動の時に多くの班では思い出していたが、確認不足になってしまった。
- ・今回、英語にも丁寧表現があることを気付かせることを目標にしている、日本語の普通の表現(“What do you want?”)と丁寧表現(“What would you like?”)を出させて両方を英訳したもので比べさせるつもりだった。しかし、子どもたちから出てくる日本語がすでに丁寧表現であったので、“What would you like?”が今まで学習したものと違う丁寧な言い方であることをどう気づかせようかと展開で悩んでしまった。子どもたちが気付いたというよりは教え込んでしまったことが大きな反省である。
- ・初めに既習事項“Here you are.”を確認していれば、習っている言い方として英語で書こうとしたかもしれないが、飛ばしてしまったので注文が届いた時の日本語を考える時間が長くなってしまった。“I have your order.” “Here’s your pizza.” “Here you are.” どの言い方でもよく、今回は習った“Here you are.”をモデル文として使うことを確認する時間が長かった。

(1 2) 統一授業研究後の研究会

- ・英語でのあいさつのやりとりに子どもたちが慣れている様子だった。
- ・日本語と英語の言い回しなど細かい部分は重要ではないので、時間でカットし、子どもが話す時間を多く取ると良い英語を使いながら学ぶことが大事で、英語に触れる時間が多いほうが良い。また、T1がたくさん話すことでInputが増えるので意識して英語を使ってほしい。
- ・“What would you like?” “I’d like ~”の表現が子どもにどれだけ定着しているかが気になる。
- ・めあて「場にに応じて丁寧な表現があることに気づくことができる。」とあるが、子どもの「気づき」を見とるのは難しい。

※タスク活動について

- ・ボランティアの二人のやりとりから、子どもによってどんな表現をしたかわかる子がいる一方、わからない子がいた。全体でタスク活動ができればよいと思う。(みんなにも同じ経験をさせることができれば)その中で、使えそうな表現を確認したり、分からないことを確認したりしてもよいのでは。後の授業で自然な表現が使えて、タスク活動ができるようになると良い。
- ・日本語から英語になったものを、グループごとにプレゼンテーションをすると英語を使っている様子が見える。・日本語と英語の違いに気づいている子もいた。
- ・第5時のポストタスクにつながると感じた。中学校では、知識の習得とタスク活動は分けて行うことが多い。小学校のうちは、ぜひたくさん活動を行い、英語に触れてほしい。
- ・買い物のかたが違ふという異文化の違いを知ることができた。日本語の買い物のしかたをグループごとに話した後、ALTがアメリカでの買い物の様子を話すことで違いに気づくというタスク活動を仕組むことも考えられる。
- ・教師主導で表現をひとつにまとめたが、3・4年の振り返りをして、子どもたちが一つの表現にまとめることをさせるのが良かったと思う。モデルを出させて、グループで全体やらせることで全体のタスク活動になったのでは。

(13) 5時間目の様子

2～4時間目の中で1時間目に学習した“What would you like?” “I’d like ~” の表現をゲームの中などで繰り返し使うことで定着を図った。また、自分の注文したいものを選ぶことができるよう、品物の数を増やしたり、値段がいくらかを聞いたり答えたりできるよう、“How much?” “~dollars, please.” の言い方を学習した。5時間目が本単元の最後の授業で、ポストタスクと位置付けたレストランゲームを行い、持っているお金の中で、レストランで自分の食べたいメニューを買う活動を行った。店員の役目とお客の役目のそれぞれを体験できるようにし、1時間目で考えた表現を取り入れて、自由にやり取りをする様子も見られた。

3 成果と課題

昨年度は、「わかる授業・楽しい授業」をサブテーマに取り組んだが、今年度は、昨年度のものをより具体的にして「わかる」につなげるために、タスク活動について、焦点を当て、研究を行った。小・中学校それぞれの立場での「タスク活動」について学ぶために、部会研究会と夏季研修会の2回にわたり山梨大学の田中武夫先生を講師としてお招きし、「タスクに基づく指導について」「小学校外国語活動から中学校英語への、小中連携について」の講義をして頂いた。タスク活動の定義付けは難しいが、「コミュニケーションの中で文法を使いながら学ぶ」ことをイメージして、コミュニケーションの目的を達成するために、自然な言語のやりとりを体験させる、また、そのために教師は活動で使えば便利だろうと思われる文法や表現を予想して、フィードバックを行うことが大切だと学んだ。従来の、文法指導の上でのコミュニケーション活動とは違うタスク活動について、それぞれの学校において授業実践を行うことができた。

研究授業では、ボランティアとして全体の前でレストランでの注文のやり取りをした児童は、今まで学習した内容を思い出したり、ジェスチャーを使ったりしながら、相手意識をもって、意欲的に伝えようとする姿が見られた。同じことを、形を変えてクラス全体の児童が体験することができれば、プレタスクを通して子どもたちが「既に何を習っているか」「どんな表現を学べば、言いたいことを相手に伝えられるか」に気づくことができたのではないかと考える。第5時のポストタスクでは、第1時からレストランゲームで会話をするという見通しを持って学習に取り組んできたため、店員と客の会話のやり取りをスムーズに行うことができた。また、学習感想を見ると、「実際にアメリカに行って、英語で注文したい。」「お店で働けるかもしれない。」という記載が見られた。ポストタスク活動での子どもたちの様子を見ると、プレタスクでは伝えられなかった表現が「わかった」、自分の本当にほしいメニューが「注文できて楽しかった」という実感が持てた様子が見られた。この単元で2つのタスク活動を行ったことで、多くの子どもが活動の中で「わかった」「言えた」という体験ができたのではないかと考える。

本部会は、多くの小・中学校の先生方が所属し、小中連携を意識した活動に継続的に取り組んでいる。今年も8月には中学校の授業を参観し、2月には小学校の授業を参観することになっている。研究会の際には、小学校の外国語活動の現状や新学習指導要領などについての情報交換を行い、中学校の英語科にどのような形でつなげていけるかを検討している。この数年のうちに、大学入試試験での4技能の測定や中学校英語科での全国学力学習調査の実施など英語学習を取り巻く環境が大きく変化しようとしている。小学校外国語活動から中・高・大へとつながる10年間の英語学習の流れを念頭に置いて、これからも小中連携において多くの接点を意図的に作ることで、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。